□寄稿□

心理学科の現状と将来展望：完成年度を迎えて

山川　誠司[1,2]　亀山　晶子[1,2]　佐藤　篤司[1,2]
中村　美穂[1,2]　中田　光紀[1-4]

Ⅰ．心の専門家を求める社会に応える「チーム心理」を目指して

社会の複雑多様化に伴って，医療・保健，福祉，教育，司法・犯罪，産業・労働などあらゆる分野で，国民の心の健康を支える高い専門性を有した心理職が求められている．昭和63年（1988年）に臨床心理士資格試験制度が始まって以来，臨床心理士は一人ひとりの心と向き合う心理専門職として，多種多様な領域での実践を地道かつ真摯に積み重ねてきた．その実績を土台として，平成29年（2017年）には「公認心理師法」が成立し，初めて心理職の国家資格が生まれた．公認心理師と臨床心理士はともに，国民利用者に安心・安全な心理支援を行う心理専門職だが，以下の表1に示すように，公認心理師と臨床心理士はそれぞれの専門性と独自性を有している．

多職種連携が声高に叫ばれる中，公認心理師と臨床心理士両者はもとより他の多種多様な専門職との違いを十分に認識し，専門職それぞれ固有の存在意義を現実吟味しながら，個々の専門性と独自性を尊重して相互に補い共生するということは高度な課題といえるであろう．

この課題に先進的に取り組むように，日本初の医療福祉の総合大学である本学には，平成30年（2018年）に赤坂心理・医療福祉マネジメント学部心理学科（東京赤坂キャンパス）が開設された．同時に同キャンパスに移転した本学大学院医療福祉学研究科（臨床心理学専攻）における心理専門職養成の実績と相まって，心理学科は本学独自のカリキュラム「関連職種連携教育（IPE：Interprofessional Education）」を実践するチームの一翼を担うまでに成長している．本学のように，学部・学科の垣根を越えて医療福祉の臨床現場に不可欠の「チーム医療・チームケア」を学ぶことが可能な大学はいまだ類を見ず，その学びは心理学科の開設によって一層臨床実践に結びつきやすくなったのではないかと思われる．

現在，心理学科では「チーム心理」のスローガンを

表1　公認心理師と臨床心理士それぞれの専門性と独自性

	公認心理師	臨床心理士
資格の性質	国家資格	公益財団法人の認定する民間資格
更新制度	なし	5年更新制度
試験時期	他の資格に準じればM2在籍中	M2修了後，10月
試験制度	マークシート	マークシート＋論述試験＋面接試験
養成カリキュラムの性質	心理学・医学領域へと拡大傾向 / 組織的指導体制不明	臨床心理学を核として心理学・医学領域を含む / 組織的指導体制確立
実習方法	学外実習（現場参加型）中心	学内相談施設実習（事例担当型）中心
医師との関係	医師の指示を受ける	医師との連携

「臨床心理士報第27巻第2号51」公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会，2016.

[1] 国際医療福祉大学　赤坂心理・医療福祉マネジメント学部　心理学科
[2] 国際医療福祉大学大学院　医療福祉学研究科　臨床心理学専攻
[3] 国際医療福祉大学　赤坂心理・医療福祉マネジメント学部　学部長
[4] 国際医療福祉大学大学院　医学研究科　公衆衛生学専攻

掲げ，本学附属の赤坂心理相談室をプラットフォームとするチーム支援のネットワークづくりを推進している最中である．本学が「チーム心理」を実行する基点として機能し，大学を取り巻くコミュニティで生活する住民利用者の心の健康に資することを目指している．

Ⅱ．心理学科の現状について

本学心理学科では，本年度4月現在，4学年で250名が在籍しており，本年3月には第一期生の卒業生を輩出するに至った（図1）．

心理学科定員は60名であり，初年度はキャンパス規模に比して小規模な状況であったが，年度を重ねるごとに学生数も増えてキャンパスに活気がでてきた．サークル活動においては，コロナ禍で活動は抑制されてはいるが19団体が登録されており，キャンパス規模（1学部2学科）としては意欲的に取り組んでいると思われる．サークル活動は，学業と並行して，心理職としても必須の技能となる実践的なコミュニケーション・スキルを学ぶ機会となっているため，学科でも積極的に支援をおこなっている．特徴的なサークルとして，赤坂同好会サークルがある．同サークルは赤坂文化を学び，地域活動にも参加することで地域との連携を体験することを目的としているが，その1つにキャンパスから徒歩15分程に鎮座している赤坂氷川神社との連携がある．当該神社は本キャンパスも氏子地域としているゆかりの深い神社であり，その山車はキャンパス入口左手に常設展示されている．そのご縁もあり，赤坂同好会の学生は，地域の方々と一緒に山車を引き，また神輿を担ぐなど，赤坂文化へ参加体験することで地域連携の在り方を実際に体験することができている（図2）．

図1　心理学科一期生の卒業式

Ⅲ．心理学科の具体的な学びについて

次に心理学科の独自のカリキュラムについて概説する．本学心理学科は，医療系に強い心理専門職を目指して，さまざまなカリキュラムの工夫を行っている（図3）．

1年次に心理学入門演習や心理学概論などの心理学に関する入門や，また卒業論文や大学院での研究に必要な心理学統計法や心理学研究法などの学修もスタートする．多くの学生は心理専門職を目指しており，2年次から本格的な心理実習が始まる．心理専門職になるためには実習の体験の中から講義では学べないもの

図2　赤坂同好会の活動例（山車清掃）

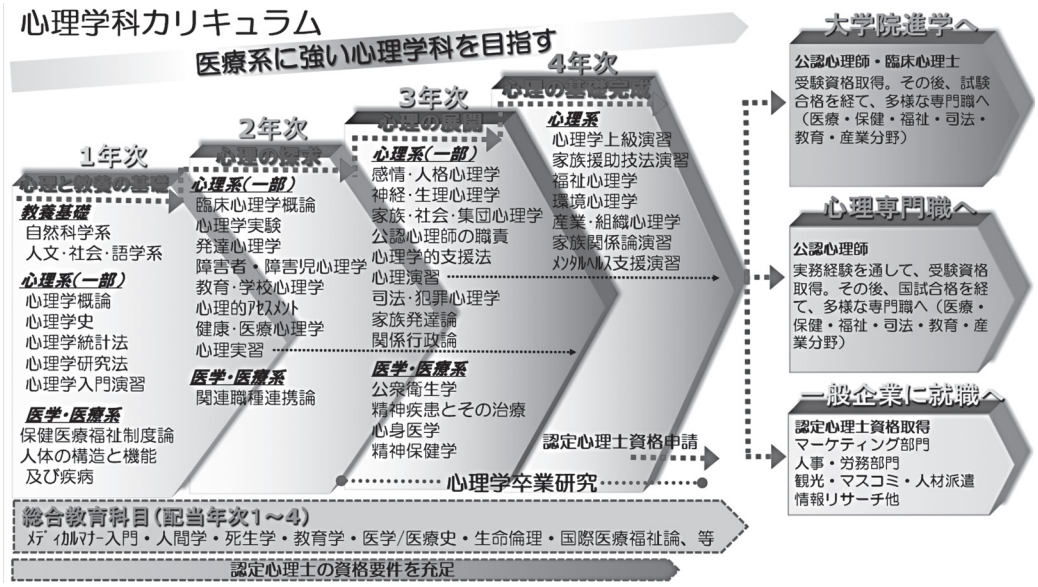

図 3　心理学科のカリキュラム（2022 年現在）と目指す目標

を実学として学修することが極めて重要である．心理実習は最低 80 時間以上の学修が必要だが，本学では文科省，厚労省が指定する主要 5 分野（保健医療，福祉，教育，司法・犯罪，産業・労働）すべてを網羅しているのが特徴である．以下，より具体的に心理実習について紹介する．

Ⅳ．心理実習について

心理学科の実習は，最先端の医療福祉の現場を見学して理解し，チーム医療・チームケアの一員として貢献できる「心理専門職」として連携の仕方を考え，現場で働く者としての倫理観を理解することを目的として実施している．

外部実習施設先での実習では，学生の教育環境や指導上の課題を共有し，協力関係を維持していくため，心理学科実習担当教員と実習施設での実習指導者との間で綿密な連絡を取り合いながら指導を行っている．

臨床現場の各領域ごとの実習時期と実習方法に関しては，次のとおりである．各領域ごとにそれぞれ事前・臨地実習・事後学習を設け，各領域でそれぞれ 45 時間ずつの実習となる．

1．実習時期

2 年次前期	心理実習Ⅰ（基礎）	必修
2 年次後期	心理実習Ⅱ（福祉領域）	選択
3 年次前期	心理実習Ⅲ（保健・医療領域）	必修
3 年次後期	心理実習Ⅳ（保育・教育領域） 心理実習Ⅴ（産業・司法領域）	選択

2．実習方法

事前学習（10 時間）	実習施設で具体的に学ぶべき項目の整理，調査，実習動機を明確化し，事前学習レポートを作成する．
臨地実習（10 時間）	心理学科実習担当教員もしくは実習指導者の指導の下，実習施設における観察学習，心理関連業務の見学，医療福祉専門職種および各部門の見学をする． ※原則として，各科目とも 1 日ずつ計 2 施設において実習を行う．
事後学習（25 時間）	事前学習を踏まえた実習後の総括，事後学習レポートを作成し，実習報告会での発表を行う．

※心理実習Ⅰ（基礎）は見学実習を中心とする学内実習．

3．心理実習Ⅰ（基礎）

臨床現場で実習を行う意味と，現場で求められる基本的な態度や意識について学習し，実習活動に必要な準備を行う．具体的には，学内の臨床心理相談室での見学実習を行い，見学を通して何を学ぶ必要があるか，

各自の課題を明確にする．また，現場の管理意識，倫理について学習する．さらに，実習における基本的マナー，知識，技能，見学実習での体験のまとめ方，記述の仕方，報告の仕方等についても学ぶ.

4. 心理実習Ⅱ（福祉領域）（新宿けやき園 他）

福祉領域の外部実習施設に出向き，臨床現場の見学を行う．たとえば児童福祉領域においては，子どもの健全な育成の視点から，また高齢者福祉領域においては，充実した人生と Well-being の視点から心理職にできること，求められていることを考える．そのため事前に見学施設の現状と課題について，グループ学習を行い，目標を焦点化し，各自の問題意識を明確にし，事前学習レポートを作成する．見学後は事後学習レポートを作成し，各自の問題意識が解決されたかどうかの確認とグループディスカッションを通して振り返りをし, 全体で実習報告をし, 教員からのフィードバックを受ける.

5. 心理実習Ⅲ（保健・医療領域）（三田病院 他）

保健・医療領域の外部実習施設に出向き，臨床現場の見学を行う．医療スタッフと連携して患者や家族の支援にあたる際，心理職としてどのようなことを留意すべきか，支援の対象となる人を心理社会的な視点からどのように理解すればよいかを考える．そのために事前に見学施設の現状と課題について，グループ学習を行い，目標を焦点化し，各自の問題意識を明確にし，事前学習レポートを作成する．見学後は事後学習レポートを作成し，各自の問題意識が解決されたかどうかの確認とグループディスカッションを通して振り返り，全体で実習報告をし，教員からのフィードバックを受ける.

6. 心理実習Ⅳ（保育・教育領域）（山王保育園 他）

保育・教育領域の外部実習施設に出向き，臨床現場の見学を行う．その際，発達段階で生じる不登園，不登校，発達障害，いじめ等の特徴を踏まえた上で，児童・生徒・保護者・教師の心理支援を考える．そのため事前に見学施設の現状と課題について，グループ学習を行い，目標を焦点化し，各自の問題意識を明確にし，事前学習レポートを作成する．見学後は事後学習レポートを作成し，各自の問題意識が解決されたかどうかの確認とグループディスカッションを通して振り返り，全体で実習報告をし，教員からのフィードバックを受ける.

7. 心理実習Ⅴ（産業・司法領域）（こころの健康相談室 他）

産業・司法領域の外部実習施設に出向き，臨床現場の見学等の活動を行う. 働く個人とその組織に対して，メンタルヘルスとキャリア支援など心理職の立場からどのような貢献ができるかを考える．そのため事前に見学施設の現状と課題について, グループ学習を行い，目標を焦点化し，各自の問題意識を明確にし，事前学習レポートを作成する．見学後は事後学習レポートを作成し，各自の問題意識が解決されたかどうかの確認とグループディスカッションを通して振り返りをし，全体で実習報告をし，教員からのフィードバックを受ける.

Ⅴ．卒業生の進路について

本学は公認心理師の受験資格取得の必須カリキュラムを備え，卒業後大学院に進むことで公認心理師の受験資格を得ることが可能である．なお，本学大学院に設置された臨床心理学専攻は，臨床心理士の指定校でもあるため，公認心理師だけでなく臨床心理士の資格取得も目指すことができる.

本学の学生のうち，将来心理職として働くことを目指し，内部進学を希望するものは多い．2021 年度卒業生では，半数近く（45%）が大学院進学を果たしたが，本学設置の大学院に内部進学した者は 23 名（卒業生の 38.3%）であった．すなわち，学部卒業後に学内外問わず大学院に進学する者のほうが多く，その大多数は内部進学によって，引き続き本学で学びを続けている.

その他，卒業生の進路としては，医療関係への就職

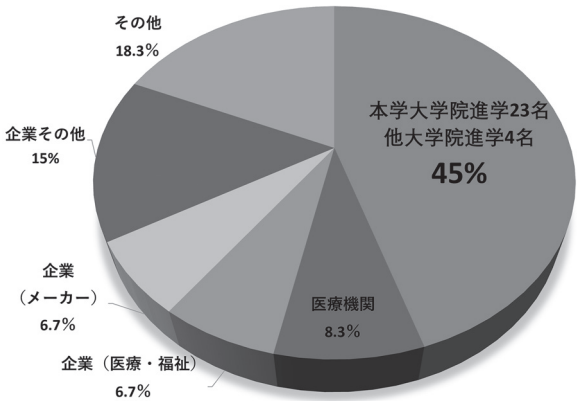

図4　心理学科第1期生（2021年度卒業）の進路状況

もある．2021年度卒業生のうち，医療機関に就職した者は8.3%，医療福祉関連の企業に就職を果たした者は6.7%と，医療福祉の現場で働くことになった卒業生は15.0%であった（図4）．これはメーカー等の一般就職をした者21.7%に次いで多かった．この点も，医療福祉に強い教育カリキュラムを備えている本学の特色といえ，心理職に限らず医療現場で働くことを希望する学生は少なくない．

なお，本学心理学科では，卒業後に認定心理士の資格取得も可能なカリキュラムとなっている．認定心理士とは，公益社団法人日本心理学会が認定する民間資格であり，「心理学の専門家として仕事をするために必要な，最小限の標準的基礎学力と技能を修得している」ことを認めるものである．つまり，本学の心理学科で学んだことは，卒業後どのような現場であっても活かせる基礎から応用までの幅広い心理学の知識を含み，普段の家庭生活を始めとして社会で働いたり地域で人と交流したりする上でも強みとして活かすことができる．したがって，心理の専門職に就かない者にとっても，本心理学科の基礎教育は，人生をより豊かに過ごすことにつながる大きなメリットになるだろう．

Ⅵ．専門家，非専門家として人のこころに寄り添える人材育成に向けて

2022年現在，本学心理学科の第1期生で公認心理師を目指す者が大学院修士課程1年に進学したところである．2024年にはこの第1期生が修士課程を修了し，公認心理師試験を受験できるようになる．つまり2024年以降，順次本学の卒業生から公認心理師が誕生するということである．

公認心理師は汎用性を特徴とし，幅広く様々な領域で活躍が期待されている．つまり，公認心理師法で定められている主要な5つの分野（保健医療分野，福祉分野，教育分野，司法・犯罪分野，産業・労働分野）のどの領域で働くことになっても，多職種連携での心理職独自の役割を理解し，職種間・地域連携などに貢献できる専門家として活躍できる人材が求められている．また，心理支援の実践家として現場で働くだけでなく，博士課程でさらに専門知識を深め，教員として将来の公認心理師の育成に携わる者もいるかもしれない．

もちろん，学科の卒業生にはチームをつなぐ役割や働きを担う者として，こころの専門家に限らない将来の活躍が多岐に渡って期待できる．例えば，生物・心理・社会モデルに基づく心のケアでは，こころの問題を抱えた者をそれぞれの専門的立場から包括的に支援する連携体制が必要であり，非専門家（家族や周囲の者など）同士の協力・連携も欠かせない．そのため，本学科では適切に周囲と協力し合える関係を築くためのコミュニケーション能力や，広い教養と寛容な精神，己の行動を律することのできる人間性を養うための基礎固めを行い，将来医療機関，福祉施設で心理支援の重要性を理解できる人材の育成を行っている．どんな人であれ，自身の周囲でこころの問題を抱えた者を支援する機会は今後出てくるといえ，本学科で学んだ者がこうした非専門家としての関わりや支援に携われれば，将来家庭や地域での支援体制の構築にさらに貢献できるだろう．

Ⅶ．最後に

本学科は2022年度より完成年度を迎えるにあたり，本学の大学院臨床心理学専攻との連携をさらに強化している．例えば学科内部で院進学を希望する者の多さを踏まえ，2022年度より本学臨床心理学専攻の定員が35名に増員され、国内臨床心理学専攻大学院では最大規模の1つとなる．そのため，ある一定の成績を収めた学部生を内部推薦枠として確保しつつ，学外か

らの進学者にも従来と同様に一般選抜で門戸を広げている．大学院としては1学年の人数が他大学院に比べて多いが，その分多様な価値観に触れ互いに成長し合える可能性がある．つまり，心理の専門職としての職業倫理や必要な知識・技術の修得に加え，自分を見つめ直す機会や一緒に学びを深める仲間を得られる機会となるだろう．

このように，本学科は将来のこころの専門家や，現在需要が高まっている医療・福祉分野に携わる人材育成のための教育環境を備えた学科である．現在，公認心理師などの資格取得に向けた専門教育を学科から引き続き行える大学院との連携体制を強化しつつあり，学科入学から修士修了後，資格取得後までの一連の専門家教育を今後ますます充実させていく予定である．公認心理師は資格取得後も自身の技術や知識を磨き鍛錬を続けることが求められており，こころの専門家としての将来の長いキャリアにおいて，本学科で培った力が活かされることを期待する．